

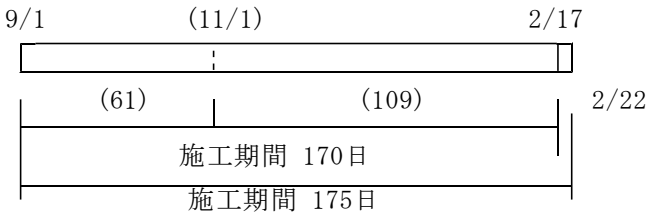
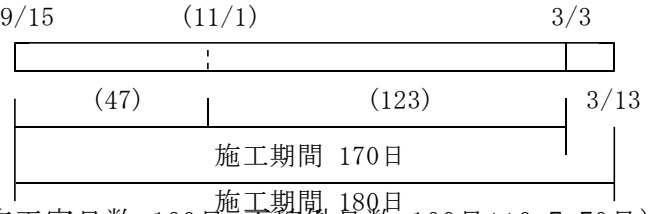
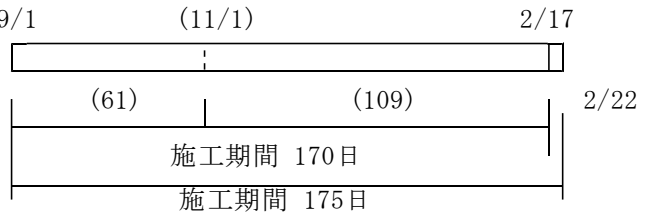
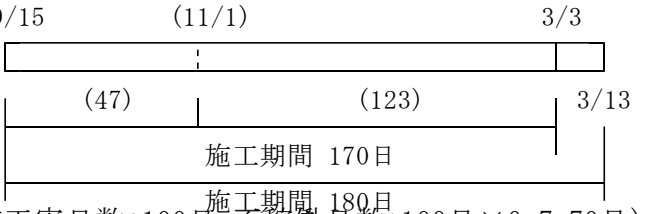
「工期設定要領」(別紙-1) 新旧対照表

改 定	現 行	備考
<p style="text-align: center;">工期設定要領</p> <p>1 目的 この要領は、建設管理部が発注する請負工事の工期設定に際し、週休2日を踏まえた適正な工期の設定方法や関連事項等について定める。</p> <p>2 工期設定 (1) 運用 工期の設定にあたっては、原則として「工期設定支援システム」を活用すること。 ただし、災害復旧工事や緊急対応工事等の内、工期があらかじめ決められているものや標準的な作業ではない工事、システムを活用した工期が実態と合わない想定されるものについてはこの限りではない。 また、本システムが対応していない(CSVファイルを読み込めない等)工事については、本要領に基づき積上げ工期による算定が必要となる。</p> <hr style="border: 1px solid red;"/> <p>(2) 用語の定義 【工期】 工事の始期から工事の終期までの期間で、準備期間、施工に必要な実日数、不稼働日、後片付け期間の合計をいう。</p> <p>【準備期間】 施工に先立って行う、労務、資機材の調達、調査、測量、設計照査、現場事務所の設置等の期間であり、工事の始期から直接工事費に計上されている種別・細別について工事着手するまでの期間をいう。 (ただし、直接工事費に計上されている作業からは、照査を行うための作業(足場設置等)は除く) ※「土木工事共通仕様書(工事着手)」の着手は、準備期間内の調査、測量、現場事務所等の設置等の現地での準備作業を含んでいる。</p> <p>【施工に必要な実日数】 種別・細別毎の日当り施工量と積算数量、施工の諸条件(施工パーティ数、施工時間など)により算出される実働日数のことをいう。</p> <p>【不稼働日】 休日(土日、祝日、年末年始休暇及び夏期休暇)、降雨日、降雪期、出水期や現場状況(地形的な特性、地元関係者や関係機関との協議状況、関連工事等の進捗状況等)を考慮した作業不能日数をいう。</p> <p>【後片付け期間】 施工終了後の自主(社内)検査、後片付け、清掃等の期間をいう。</p> <p>【雨休率】 休日(土日、祝日、年末年始休暇及び夏期休暇)と降雨日等の年間の発生率をいう。</p>	<p style="text-align: center;">工期設定要領</p> <p>1 目的 この要領は、建設管理部が発注する請負工事の工期設定に際し、週休2日を踏まえた適正な工期の設定方法や関連事項等について定める。</p> <p>2 工期設定 (1) 運用 工期の設定にあたっては、原則として「工期設定支援システム」を活用すること。 ただし、災害復旧工事や緊急対応工事等の内、工期があらかじめ決められているものや標準的な作業ではない工事、システムを活用した工期が実態と合わない想定されるものについてはこの限りではない。 また、本システムが対応していない(CSVファイルを読み込めない等)工事については、本要領に基づき積上げ工期による算定が必要となる。 なお、工事内容が一般的、標準的な漁港工事については、これまで通り「標準工期算定日数表(漁港編)」を使用しても良い。(別紙-2参照)</p> <p>(2) 用語の定義 【工期】 工事の始期から工事の終期までの期間で、準備期間、施工に必要な実日数、不稼働日、後片付け期間の合計をいう。</p> <p>【準備期間】 施工に先立って行う、労務、資機材の調達、調査、測量、設計照査、現場事務所の設置等の期間であり、工事の始期から直接工事費に計上されている種別・細別について工事着手するまでの期間をいう。 (ただし、直接工事費に計上されている作業からは、照査を行うための作業(足場設置等)は除く) ※「土木工事共通仕様書(工事着手)」の着手は、準備期間内の調査、測量、現場事務所等の設置等の現地での準備作業を含んでいる。</p> <p>【施工に必要な実日数】 種別・細別毎の日当り施工量と積算数量、施工の諸条件(施工パーティ数、施工時間など)により算出される実働日数のことをいう。</p> <p>【不稼働日】 休日(土日、祝日、年末年始休暇及び夏期休暇)、降雨日、降雪期、出水期や現場状況(地形的な特性、地元関係者や関係機関との協議状況、関連工事等の進捗状況等)を考慮した作業不能日数をいう。</p> <p>【後片付け期間】 施工終了後の自主(社内)検査、後片付け、清掃等の期間をいう。</p> <p>【雨休率】 休日(土日、祝日、年末年始休暇及び夏期休暇)と降雨日等の年間の発生率をいう。</p>	(削除)

「工期設定要領」(別紙-1) 新旧対照表

改 定	現 行	備 考																								
<p>3) 雨休率(冬期係数) 休日と降雨降雪日及び除雪に要する換算日数(※1)並びに冬期における作業効率の低下(※2)を考慮した年間の発生率を設定する。(暴風等の気象における地域の実情を考慮してもよい) 休日は、土日、祝日、年末年始休暇【6日】及び夏期休暇【3日】とする。 ①1日の降雨・降雪量が10mm以上/日の日、②8時から17時までのWBGT値が31以上の時間を足し合わせた日数(少数第1位を四捨五入(整数止め)し、日数換算した日数)とし、過去5カ年の気象庁及び環境省のデータより年間の平均発生日数を算出。 ※1:過去5カ年の気象庁のデータより1日の積雪量が5cm以上/日の年間の平均発生日数に、除雪に要する時間を考慮した換算日数。 ※2:冬期の低温等の影響による作業効率の低下を考慮した係数。 休日と降雨降雪日及び除雪に関する換算日数の年間日数並びに冬期における作業効率の低下を考慮し、雨休率を設定する。 降雨降雪日及び除雪に要する換算日数は、地域及び年毎に気象の格差があることから均衡を図るため雨休率は全道平均の値とする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 雨休率(冬期係数0.8)を見込んだ不稼働日数の算出方法 例:不稼働日数=施工に必要な実日数(100日)×雨休率0.8=80日 その結果、施工日数=100日×1.8=180日となる。 ※準備・後片付け期間及びその他の不稼働日は、雨休率を見込まないこと。 </div> <p>冬期の影響を考慮しない雨休率(係数)による施工日数において、11月1日から3月31日の冬期間の占める割合に応じて施工日数を算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; margin: 10px 0;"> <caption>冬期間(11月1日から3月31日)が施工期間に占める割合の雨休率</caption> <thead> <tr> <th>冬期間が施工期間に占める割合(%)</th> <th>雨休率</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0以上 ~ 30未満</td> <td>0.7</td> <td>雨休率(係数)</td> </tr> <tr> <td>30以上 ~ 70未満</td> <td>0.75</td> <td>雨休率(0.7)と(冬期0.8)の1/2</td> </tr> <tr> <td>70以上 ~ 100以下</td> <td>0.8</td> <td>雨休率(冬期係数)</td> </tr> </tbody> </table> <p>施工期間算出例</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <p>1) 冬期間が施工期間に占める割合が30%未満の場合</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <p>雨休率0.7で算出した施工期間:170日(施工実日数:100日、不稼働日数:100日×0.7=70日) 冬期対象期間/施工期間:47/170=0.276=0.28(28%) 結果、施工期間は170日となる。</p>	冬期間が施工期間に占める割合(%)	雨休率	備 考	0以上 ~ 30未満	0.7	雨休率(係数)	30以上 ~ 70未満	0.75	雨休率(0.7)と(冬期0.8)の1/2	70以上 ~ 100以下	0.8	雨休率(冬期係数)	<p>3) 雨休率(冬期係数) 休日と降雨降雪日及び除雪に要する換算日数(※1)並びに冬期における作業効率の低下(※2)を考慮した年間の発生率を設定する。(暴風等の気象における地域の実情を考慮してもよい) 休日は、土日、祝日、年末年始休暇【6日】及び夏期休暇【3日】とする。 ①1日の降雨・降雪量が10mm以上/日の日、②8時から17時までのWBGT値が31以上の時間を足し合わせた日数(少数第1位を四捨五入(整数止め)し、日数換算した日数)とし、過去5カ年の気象庁のデータより年間の平均発生日数を算出。 ※1:過去5カ年の気象庁のデータより1日の積雪量が5cm以上/日の年間の平均発生日数に、除雪に要する時間を考慮した換算日数。 ※2:冬期の低温等の影響による作業効率の低下を考慮した係数。 休日と降雨降雪日及び除雪に関する換算日数の年間日数並びに冬期における作業効率の低下を考慮し、雨休率を設定する。 降雨降雪日及び除雪に要する換算日数は、地域及び年毎に気象の格差があることから均衡を図るため雨休率は全道平均の値とする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 雨休率(冬期係数0.8)を見込んだ不稼働日数の算出方法 例:不稼働日数=施工に必要な実日数(100日)×雨休率0.8=80日 その結果、施工日数=100日×1.8=180日となる。 ※準備・後片付け期間及びその他の不稼働日は、雨休率を見込まないこと。 </div> <p>冬期の影響を考慮しない雨休率(係数)による施工日数において、11月1日から3月31日の冬期間の占める割合に応じて施工日数を算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; margin: 10px 0;"> <caption>冬期間(11月1日から3月31日)が施工期間に占める割合の雨休率</caption> <thead> <tr> <th>冬期間が施工期間に占める割合(%)</th> <th>雨休率</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0以上 ~ 30未満</td> <td>0.7</td> <td>雨休率(係数)</td> </tr> <tr> <td>30以上 ~ 70未満</td> <td>0.75</td> <td>雨休率(0.7)と(冬期0.8)の1/2</td> </tr> <tr> <td>70以上 ~ 100以下</td> <td>0.8</td> <td>雨休率(冬期係数)</td> </tr> </tbody> </table> <p>施工期間算出例</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <p>1) 冬期間が施工期間に占める割合が30%未満の場合</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <p>雨休率0.7で算出した施工期間:170日(施工実日数:100日、不稼働日数:100日×0.7=70日) 冬期対象期間/施工期間:47/170=0.276=0.28(28%) 結果、施工期間は170日となる。</p>	冬期間が施工期間に占める割合(%)	雨休率	備 考	0以上 ~ 30未満	0.7	雨休率(係数)	30以上 ~ 70未満	0.75	雨休率(0.7)と(冬期0.8)の1/2	70以上 ~ 100以下	0.8	雨休率(冬期係数)	(追加)
冬期間が施工期間に占める割合(%)	雨休率	備 考																								
0以上 ~ 30未満	0.7	雨休率(係数)																								
30以上 ~ 70未満	0.75	雨休率(0.7)と(冬期0.8)の1/2																								
70以上 ~ 100以下	0.8	雨休率(冬期係数)																								
冬期間が施工期間に占める割合(%)	雨休率	備 考																								
0以上 ~ 30未満	0.7	雨休率(係数)																								
30以上 ~ 70未満	0.75	雨休率(0.7)と(冬期0.8)の1/2																								
70以上 ~ 100以下	0.8	雨休率(冬期係数)																								

「工期設定要領」(別紙-1) 新旧対照表

改 定	現 行	備 考
<p>2) 冬期間が施工期間に占める割合が30%以上70%未満の場合</p>  <p>雨休率0.7で算出した施工期間:170日(施工実日数:100日,不稼働日数:100日×0.7=70日) 冬期対象期間/施工期間 : 109/170=0.641=0.64 (64%)</p> <p>雨休率0.75で算出した施工期間:175日(施工実日数:100日,不稼働日数:100日×0.75=75日) 結果、施工期間は175日となる。</p> <p>3) 冬期間が施工期間に占める割合が70%以上100%以下の場合</p>  <p>雨休率0.7で算出した施工期間:170日(施工実日数:100日,不稼働日数:100日×0.7=70日) 冬期対象期間/施工期間:123/170=0.723=0.72 (72%)</p> <p>雨休率0.80で算出した施工期間:180日(施工実日数:100日,不稼働日数:100日×0.8=80日) 結果、施工期間は180日となる。</p>	<p>2) 冬期間が施工期間に占める割合が30%以上70%未満の場合</p>  <p>雨休率0.7で算出した施工期間:170日(施工実日数:100日,不稼働日数:100日×0.7=70日) 冬期対象期間/施工期間 : 109/170=0.641=0.64 (64%)</p> <p>雨休率0.75で算出した施工期間:175日(施工実日数:100日,不稼働日数:100日×0.75=75日) 結果、施工期間は175日となる。</p> <p>3) 冬期間が施工期間に占める割合が70%以上100%以下の場合</p>  <p>雨休率0.7で算出した施工期間:170日(施工実日数:100日,不稼働日数:100日×0.7=70日) 冬期対象期間/施工期間:123/170=0.723=0.72 (72%)</p> <p>雨休率0.80で算出した施工期間:180日(施工実日数:100日,不稼働日数:100日×0.8=80日) 結果、施工期間は180日となる。</p>	<p>変更なし</p>

「工期設定要領」(別紙-1) 新旧対照表

改 定	現 行	備 考
<p>(2) 工事工程クリティカルパスの変更が生じた場合の措置 工程に変更が生じた場合には、その要因と変更後の工事工程について受発注者間で共有すること。 工程の変更理由が以下の①～⑤に示すような受注者の責によらない場合は、適切に工期の変更を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①受発注者間で協議した工事工程の条件に変更が生じた場合 ②著しい悪天候により作業不稼働日が多く発生した場合 ③工事中止や工事一部中止により全体工程に影響が生じた場合 ④資機材や労働需要のひっ迫により、全体工程に影響が生じた場合 ⑤その他特別な事情により全体工程に影響が生じた場合 	<p>(2) 工事工程クリティカルパスの変更が生じた場合の措置 工程に変更が生じた場合には、その要因と変更後の工事工程について受発注者間で共有すること。 工程の変更理由が以下の①～⑤に示すような受注者の責によらない場合は、適切に工期の変更を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①受発注者間で協議した工事工程の条件に変更が生じた場合 ②著しい悪天候により作業不稼働日が多く発生した場合 ③工事中止や工事一部中止により全体工程に影響が生じた場合 ④資機材や労働需要のひっ迫により、全体工程に影響が生じた場合 ⑤その他特別な事情により全体工程に影響が生じた場合 	<p>変更なし</p>

「工期設定要領」(別紙-2) 新旧対照表

改 定	現 行	備 考
削除	「標準工期算定日数表(漁港編)」使用にあたっての留意事項	全て削除

「工期設定要領」(別紙-3) 新旧対照表

改 定	現 行	備 考																
変更なし	<p>1. 特記仕様書の記載例【工期設定について】 特記仕様書に以下事項を記載すること。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○工期設定について 工期：平成○年○月○日から平成○年○月○日まで</p> <p>工期には、施工に必要な実日数（実働日数）以外に以下の事項を見込んでいる。</p> <p>※供用時期等が決まっていることにより、工事の完了時期が決まっている場合は、当該条件を記載すること。 【例】当該箇所は、平成▲年▲月▲日に供用を予定している箇所である。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="padding: 2px;">①準備期間</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">○日間</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">②後片付け期間</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">○日間</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">③雨休率（実働工期日数に休日と悪天候により作業が出来ない日数を見込むための係数 実働日数×係数）</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">1. 7</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">④北海道漁港別供用係数（実働工期日数に波高等による作業不能日を見込むための係数 実働日数×係数）：ランク3 対象工種：○○工、△△工及び□□工</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">2. 05</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">⑤余裕ある工期設定の余裕期間 工期始期日から平成○年○月○日</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">○日間</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">⑥地元調整等による工事不可期間 平成○年○月○日から平成○年○月○日</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">○日間</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">⑦・・・・・・・・</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">○日間</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">⑧・・・・・・・・</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">○日間</td> </tr> </table> <p style="margin-top: 10px;">※上記の他、特別に見込んでいる日数や特別に工期に影響のある事項があれば記載する。</p> </div>	①準備期間	○日間	②後片付け期間	○日間	③雨休率（実働工期日数に休日と悪天候により作業が出来ない日数を見込むための係数 実働日数×係数）	1. 7	④北海道漁港別供用係数（実働工期日数に波高等による作業不能日を見込むための係数 実働日数×係数）：ランク3 対象工種：○○工、△△工及び□□工	2. 05	⑤余裕ある工期設定の余裕期間 工期始期日から平成○年○月○日	○日間	⑥地元調整等による工事不可期間 平成○年○月○日から平成○年○月○日	○日間	⑦・・・・・・・・	○日間	⑧・・・・・・・・	○日間	前項「標準工期算定日数表（漁港編）使用にあたっての留意事項」の削除により別紙-3を別紙-2に変更
①準備期間	○日間																	
②後片付け期間	○日間																	
③雨休率（実働工期日数に休日と悪天候により作業が出来ない日数を見込むための係数 実働日数×係数）	1. 7																	
④北海道漁港別供用係数（実働工期日数に波高等による作業不能日を見込むための係数 実働日数×係数）：ランク3 対象工種：○○工、△△工及び□□工	2. 05																	
⑤余裕ある工期設定の余裕期間 工期始期日から平成○年○月○日	○日間																	
⑥地元調整等による工事不可期間 平成○年○月○日から平成○年○月○日	○日間																	
⑦・・・・・・・・	○日間																	
⑧・・・・・・・・	○日間																	